

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

当社ミッションである「法令順守、社会(地域)貢献、おもてなしの心」、更には「快適空間、感性を刺激する料理、チームワーク、安心安全の確保、職員のスキルアップ等」を含む10項目の実践を基に、持続可能な未来の実現に貢献できるSDGsに取り組んでまいります。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に◎)	SDGsに関する重点的な取組み	指標
◎環境 ◎社会 ◎経済	・費用削減	・生ごみ処理機(最後は水になり排水) 年間200万円程度の削減 ・地下水利用(熊本市との災害時利用締結) 年間650万円程度の削減 ・館内照明のLED化及びインバーター導入 年間30万Kw程度の削減
◎環境 ◎社会 ◎経済	・災害時の近隣住民及び現コロナ禍における医療従事者の宿泊受入れ ・温暖化対策として二酸化炭素排出量の削減 インバーター導入による空調管理、夏季・冬季の空調温度設定管理、冷温水機稼働時間調整、職員への削減意識の徹底 ・ペットボトルキャップ回収	・地震や台風時に宴会場を利用し無料で受入れ、また家族感染が不安な医療従事者を格安にて受入れる。 ・2018年度1,547t-CO2 2019年度1,190t-CO2 2020年度841t-CO2 →2023年度1,500t-CO2目標 (継続実施によりコロナ禍前の水準を維持) ・ポリオケジンの変換(累計3,409人分) 2018年度86人分 2019年度31人分 2020年度11人分 →2023年度80人分目標 (継続実施によりコロナ禍前の水準を維持)
○環境 ○社会 ◎経済	・新卒及び中途採用の実施 地元の学校への求人及びハローワークへの中途採用求人を実施。また、再雇用及び外国人雇用(現3名)も促進している。 ・高齢者再雇用及び女性職員雇用の促進	・2020年度採用(新卒6名、中途3名) →2023年度継続実施 期中退職者に伴い、中途採用実施 ・現再雇用5名、育休3名、時短1名

<パートナーシップ>

熊本市と災害時の地下水利用を締結。取引先と信頼関係を構築する事で安心安全な取り組みを実施。コロナ禍においては、共に売上減により厳しい取引先の商品(菓子、花など)や生産農家の市場に出せない規格外野菜を格安で一緒に販売し、良きパートナーとしてこの時期を支えあい、コロナ終息を願っている。

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。

・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時

- までの数値目標を記載してください。
- ・「パートナーシップ」には、企業や NPO 法人、行政など関係機関との連携があれば記載してください。